

## I 急病のときの対応

### 13. 発疹が出たとき

#### 家庭での処置

1. 発疹の多く出ている部位を確認。(体全体、体幹、手足、口の中など)
2. 発疹の性状を確認。(水ぼうなど)
3. ほかの症状の有無。(発熱、機嫌など)

#### その後の対応



#### 家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

熱が無く(または微熱程度)で機嫌も悪くない。



#### その時点で病院受診

高熱を伴っている。  
青あざや出血したような細かい赤い発疹(出血斑)が体に多く出ている。

#### 家庭で見る時のポイント

**発疹ではあまり緊急を要することは多くありません。たいていは翌日の受診で間に合うものです。**

麻疹: 高熱で咳鼻水も多く、ぐったりします。発疹は顔、全身に出ます。色は薄く暗いピンク色です。

水ぼうそう: 3～5mm台のピンクの丸い発疹が体中に出ます。最初はぼつぼつくらいで、翌日あたりにパッと増えてきます。透明な水疱を持つ発疹が混じってきます。普通、熱が2日くらいですが、そんなにつらくはありません。自然に治りますが、早めにお薬を飲むと軽くすむことが多いです。

手足口病: 手、足、口の中などに皮疹が出ます。赤黒い発疹で、中に濁った水疱を持つ物も出ます。痛くて食べられなくなることもあります。元気なときは保育園、幼稚園を休む必要はありません。

伝染性紅斑(リンゴ病): 主にほっぺ、腕、膝などの外側にまだらな赤味が出てきます。少し痒いこともあります。元気なら保育園、幼稚園を休む必要はありません。但し、妊婦は患児の皮疹が消えても、1ヶ月くらい近づかないようにしましょう。

**水ぼうそう、手足口病、リンゴ病などは翌日の受診で十分ですが、麻疹はとてつらそうならすぐに受診してください。**